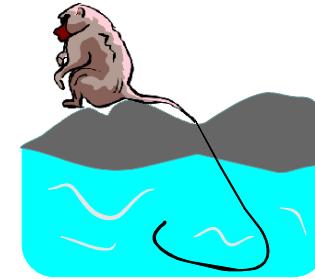


## サルのしっぽ



むかしむかし、サルのしっぽは50メートルありました。でも、クマにだまされて、今のように短くなってしまいました。

5 あるときサルはクマのうちに<sup>い</sup>行って、どうしたらたくさん<sup>かわ</sup>の<sup>さかな</sup>魚を<sup>つか</sup>捕まえることができるだろうかと、<sup>そうだん</sup>相談しました。クマは、「<sup>こんばん</sup>今晚のようなとても<sup>さむ</sup>寒い<sup>ばん</sup>晩に、どこか<sup>ふか</sup>深い<sup>うえ</sup>ふちの上の<sup>いわ</sup>岩に<sup>すわ</sup>座って、そのしっぽを<sup>みず</sup>水の中<sup>なか</sup>につけたらいいですよ。そうすると、きっといろいろな<sup>さかな</sup>魚を<sup>つ</sup>釣ることができるから。」

10 と<sup>おし</sup>教えてくれました。サルは<sup>およろこ</sup>大喜びで、<sup>かわ</sup>川に<sup>い</sup>行って、しっぽを<sup>みず</sup>水につけて<sup>ま</sup>待っていました。しばらくすると、だんだんしっぽが<sup>おも</sup>重くなってきました。サルは<sup>さかな</sup>魚がしっぽにくっついてきたのだと<sup>おも</sup>思いました。でも<sup>ほんとう</sup>本当は<sup>かわ</sup>川の<sup>みず</sup>水が<sup>こお</sup>凍り<sup>はじ</sup>始めたのです。サルは「もうこれで<sup>じゅうぶん</sup>十分。寒くて冷たいから早くうちに<sup>かえ</sup>帰りましょう。」と<sup>おも</sup>思っ

15 て、しっぽを<sup>ひ</sup>引き<sup>あ</sup>上げようとしたましたが、どうやっても<sup>ぬ</sup>抜けません。さあ<sup>たいへん</sup>大変です。サルは<sup>おおさわぎ</sup>大騒ぎをして、<sup>むり</sup>無理にしっぽを<sup>ひ</sup>引<sup>ば</sup>って張りました。そうしたら、しっぽは<sup>ねもと</sup>根元から<sup>き</sup>ぷつぷつと<sup>き</sup>切れてしまいました。だからサルのしっぽは<sup>みじか</sup>あんなに短くなってしまったのです。また、その<sup>とき</sup>時

20 からサルの<sup>かお</sup>顔やおしりは<sup>ま</sup>真っ赤<sup>か</sup>になってしまいました。

5

ふち=tiefe Stelle/Abgrund des Flusses

10

大喜びで=mit großer Freude

しばらくすると=nach einer Weile

くっつく=kleben

十分〔じゅうぶん〕=ausreichend, genug (nicht verwechseln mit 十

15

分〔じゅうぷん〕=10 Minuten); ひきあげる=hochziehen

大騒ぎ=große Aufregung

ぷつぷつときれる=zerspringen